

演題番号 16

診療放射線技師による検査説明の実際 ～核医学検査を中心に～

公益財団法人 星総合病院

○続橋 順市 佐藤 智亮 森田 美香 渡辺 愛理

深谷 友貴 石塚 好将 佐々木 謙吾

【背景】

近年、診療放射線技師によるタスクシフト/シェアが求められているなか、検査説明もその中の一つである。その検査説明は近年の医療技術の高度化に伴い、患者の理解と安心を促進し検査の正確さや安全性を確保するためには必要なものとなる。

昨年山形で開催された、東北放射線医療技術学術大会における検査説明のシンポジウムにおいて、当院における検査説明の方法およびアンケート調査結果を報告した。

今回は、その報告内容のなかで核医学検査における検査説明を中心に、当院における検査説明の方法およびアンケート調査結果を報告する。

【方法】

アンケート調査においては、外来および入院患者・外来および病棟看護師・診療放射線技師それぞれに調査を行った。なおこのアンケート調査は、星総合病院倫理委員会の承認（R5-4）を受けている。

【結果】

患者における検査説明においては、外来患者において核医学検査の説明件数が多く、費用の面についての不安が多かった。次回も検査説明を希望する患者は外来・入院ともに8割弱であり、満足度も高かった。

看護師へのアンケート結果においては、外来・病棟どちらにおいても診療放射線技師による検査説明の認知度および満足度は高く、看護師の業務負担軽減に繋がるとの結果であった。

診療放射線技師へのアンケート結果においては、多くの診療放射線技師は検査説明の必要性を感じており、その内容においては患者の状態確認や前処置の説明に有用であるとの回答が多かった。業務負担においては普通との回答が多く、内容は時間や人的負担が挙げられた。

【考察】

2018年から診療放射線技師による検査説明を行ってきて、その重要性を大きく感じている。特に核医学検査においては、検査時間・注射時間・検査手技・前処置・費用等説明内容が多岐にわたる為、診療放射線技師による検査説明はとても有用である。実際に診療放射線技師が検査説明を行う事によって、検査時間や検査手技を変更した事例が複数存在し、患者にとって有益性が高いと考える。また、看護師にとっては業務負担の軽減に繋がり、タスクシフト/シェアの推進になると考える。さらに診療放射線技師においては、事前に患者状態を把握できる事により、円滑な検査遂行が期待できる。

【結語】

診療放射線技師による検査説明は、患者・看護師・診療放射線技師の三者にとって大いに有用である（特に核医学検査において）。